



2015.09.24「アメリカ映画からみる”アメリカ”という国」村田晃嗣同志社大学学長(政治学)

クオリア AGORA 2015 第3回会合

「京都から2030年の未来をつくる」をテーマに、今年度のクオリアAGORA第3回。

19世紀から20世紀にかけての米国は、英を抜いて世界の経済大国へ成長。それまでは議会在国の運営を握っていたが、次第に行政の役割が増大し、大統領の役割と責任が大きく重くなった。時期を同じくして映画が誕生、大衆に大きな影響を与える産業に成長した。

米映画は、政治、経済を握る東部からの影響を受けにくい西海岸のハリウッドで成長、大統領制の発展と軌を同じくし、ときどきの政治に対する影響を大衆に与えてきた歴史がある。

過去、ハリウッド映画で政治を描いたものは枚挙にいとまがない。大衆に対する影響力から、映画が政治に与えた影響は日本と比較にならず大きい。

ハリウッド映画は、女性、黒人、ヒスパニックなど、たえず時代のマイノリティに光をあて、Social Change に影響してきたと村田学長。

以上から、本日の討議の課題は Social Change になった。

未来を創る財団は、今年からクオリアAGORAの会員として参加している。



討議チームのメンバー



討議の結果を代表者が発表

